

【ポスター発表】

**模擬利用者を活用した相談援助演習の効果 その(2)**

—地域住民が模擬利用者として授業に参加する意義と課題—

○ 皇學館大学 守本友美 (1619)

鶴沼 憲晴 (皇學館大学・2453)

[キーワード]: 相談援助演習、模擬利用者、地域住民

**1. 研究目的**

近年、社会経済状況の変化に伴い、生活課題が複雑化・多様化し、社会福祉士に求められる役割も拡大している。社会福祉士がそれらの役割を果たすためには、個別の生活課題について高度な相談援助の技術が求められる。筆者らは相談援助技術を習得し向上させるための基盤を成すものは「コミュニケーション技術」ととらえ、「相談援助演習」においてもコミュニケーション技術の習得と定着に重点を置いた授業内容を展開している。その方法の一つとしてあげられるのが、地域住民ボランティアが演じる模擬利用者による模擬面接である。これは1970年代に医学教育で模擬患者演習として導入された方法を援用したもので、地域住民の方々に生活課題をもった人を演じていただき、一定時間学生とコミュニケーションを図るという方法である。この方法の教育効果については本学会ですでに報告している<sup>1)</sup>。一方、看護学教育においては、実習前に模擬患者演習を導入することの教育効果のみならず、地域住民にとっての学習効果も認められるという研究成果も報告されている<sup>2)</sup>。この点について筆者らも、模擬利用者を導入する「相談援助演習」は学生にとっての教育効果のみならず、参加する地域住民にとっても学習効果があるのではないかと実践のなかでは感じていたが、実証的な取り組みには至らなかった。

そこで本研究では、「相談援助演習」に地域住民が模擬利用者として参加することにどのような意義があるのかを明らかにするとともに、学生への教育効果を図るために、模擬利用者の質の向上を目指す際の課題を抽出することを目的とする。

**2. 研究の視点および方法**

模擬利用者の「相談援助演習」への導入には、大学における方向性の明確化、模擬利用者の量と質の確保など課題は残されているが、「相談援助演習」に地域住民が参加することの教育効果を明確にすることで、これらの課題を解決する端緒を示すことができると考える。また、地域に開かれ地域貢献を目指す大学のあり方の指針にもなり得ると考えられる。

以上を踏まえて、本研究では、模擬利用者として授業に参加している地域住民10名を対象として質問紙調査およびグループインタビューを実施した。質問紙調査は2015年6月に実施し、参加の動機、授業に参加することへの感想、学生に対する印象の変化、継続の意思とその理由について自由記述方式で尋ねた。また、グループインタビューは2015年11月に実施した。模擬利用者を演じてみての感想、学生の様子で気になった点、事前事後指

導への要望などについて、3グループに分かれて1グループにつき60分程度の半構造的インタビューを行い、逐語記録を作成した。質問紙、逐語記録の分析はいずれもキーセンテンスを抽出し、それらの意味内容の類似点、相違性点を検討し、サブカテゴリー、カテゴリーを導き出した。

### 3. 倫理的配慮

「日本社会福祉学会研究倫理指針」に則り、質問紙調査およびインタビューいずれの実施に際しても、研究目的・方法、研究参加の自由、匿名性の保持、結果の公表等について文書および口頭で説明し、書面で同意を得た。

### 4. 研究結果

#### (1) 質問紙調査の結果

参加動機としては、【社会貢献】【社会福祉への関心】【他者からの紹介】の3カテゴリーが抽出された。授業参加への感想としては、【学習の機会の獲得】【学生に接することによる活性化】【演じることの困難さ】【学生への評価の配慮】の5カテゴリーが抽出された。大学や学生への印象の変化では、【真面目・誠実だという印象】の1カテゴリーのみが抽出された。継続への意思とその理由については、全員が継続したいという意思を示し、その理由としては、【楽しみ】【充実感】の2カテゴリーが抽出された。

#### (2) グループインタビューの結果

模擬利用者を演じてみての感想では、【学生の成長に対する喜び】【適切な応答への迷い】【相談援助という仕事の理解】の3カテゴリーが抽出された。学生の様子で気になった点については、【言葉遣い】【言葉と感情の乖離】【思いこみによる判断】の3カテゴリーが抽出された。事前事後指導への要望については、【教員からのフィードバック】【学生からのフィードバック】の2カテゴリーが抽出された。

### 5. 考察

以上により、模擬利用者は【社会貢献】をしたいと考えて参加し、容易ではない【相談援助の仕事を理解】できるような【学習機会を獲得】し、その仕事を目指そうとする【真面目・誠実な】学生と接することで、自らの【活性化】と【学生の成長に対する喜び】を感じており、この点が地域住民が模擬利用者として授業に参加する意義であるにとらえられる。なお、【社会貢献】や【活性化】は、前出の看護教育の先行研究でもみられる成果である。これは参加の継続性や参加者の拡大へとつながっており、ボランティア活動者の広がりといった地域福祉推進に大学が貢献できる可能性を見いだすことができる。また、模擬利用者自身の資質向上のための課題としては、適切な【教員からのフィードバック】【学生からのフィードバック】を得られるような機会の提供とその方法の工夫があげられる。

1) 鶴沼憲晴・守本友美 (2014) 「効果的な相談援助演習のあり方その(1)」日本社会福祉学会第62回秋季大会

2) 玉田雅美ほか (2014) 「地域住民ボランティアが参加する看護技術演習の意義—地域住民の思いと効果—」『神戸市看護大学紀要』18、29-38